

全学モジュール科目案内

テーマ名	14-A13 世界を知り、日本を知る		
テーマ責任者	正本 忍	責任部局	多文化社会学部
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
趣旨	<p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本(と日本人)を知る」ことをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、芸術、言語、交流などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなって生じている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれのテーマに関する基礎的知識を習得する(全科目)。</li> <li>・グローバルな視点およびローカルな視点に立って、多様な世界と日本を理解する(全科目)。</li> <li>・世界や日本における多文化状況に関心を持ち、その状況が成立した理由(条件)と経緯(歴史)、それを維持する目的や意義を理解する(全科目)。</li> <li>・グローバル化の進展に伴って生じている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につける(全科目)。</li> <li>・多様な言語的・文化的背景を持つ人々と協働することができる(全科目)。</li> <li>・以上を通して、物事を多面的に捉え広い視野から考える能力を身につける(全学モジュール共通目標)</li> </ul>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「世界を知り、日本を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。</p>		

	科目名	担当者名	概要	キーワード
モジュールⅠ	(I a) 前近代の日本と世界	佐久間 正	ユーラシア大陸の東辺、太平洋の西辺の島嶼国家日本は、明治時代より前の前近代においても、アジアをはじめ列島以外の地域と様々な「交流」が行われており、そうした中で「日本」(遅れて「琉球王国」)が形成されていった。そのような交流の形態と、それとの緊張関係の中で形成されていった「日本」(琉球王国)の特質を国家・社会・文化等の側面から考えてみよう。	近代・前近代 本土国家 琉球王国 中華帝国 土着・外来・日本化 開国・鎖国
	(I b) 近現代のアジアと日本	コンペル ラドミール	沖縄を注視することによって、日本をはじめ東アジアの近現代史における国民国家形成と変容への理解を深め、現代社会の仕組みについての洞察力を鍛える。	沖縄 日本近現代史 政治学
	(I c) 人々の暮らしから見る現代日本	野上 建紀	私たちは「モノ」に囲まれて生活している。そして、「モノ」には個人や家族、社会が反映されている。そのため、「モノ」を観察すれば、その社会背景を知ることができる。授業では、生活に使われた「モノ」の一つである陶磁器の変遷を通して、陶磁器に投影された人々の暮らし(生活、産業)の変化を見ていく。そして、過去がどのように現在につながっているか考える。	遺物 近世考古学 陶磁器 伝統産業

(Ⅱa) 世界の中のヨーロッパ、アジア、アフリカ	正本 忍	ヨーロッパの文化と文明の影響力は今なお大きい。本講義では第一に、ヨーロッパ文化の基層について基礎的な知識を得る。第二に、ヨーロッパ文明が世界にもたらした影響を環境面において検討する。	ヨーロッパ文化 文明環境 歴史
(Ⅱb) 世界と日本の文化交流	鈴木 英明	この授業では、文化の交流を通して、日本を世界の中に位置づけてみたいと思います。具体的には、文化がどのような背景で運ばれ、どのようにして異なる文化と交わるのか、そして、それが何をもたらすのかという点について、特に歴史に題材を求めて考えます。この授業で焦点を当てる日本と世界というのは、ひとつの事例です。文化の交流は世界の至る場所で縦横に行われてきたし、現在も行われています。過去と現在とを切り離すのではなく、また、日本と世界のそのほかの場所を切り離すのではないものの見方を養いたいと思います。	世界史 異文化接触 交易
(Ⅱc) 芸術で見る世界と日本	王 維	地球に暮らすあらゆる民族は、異なる自然環境、言語や宗教、或いは歴史や社会などの環境に対応し、周辺の民族と交流しながら、その社会でのアイデンティティに支えられた固有の祭礼、芸能や音楽をもってきた。多彩な祭礼、芸能や音楽を通して様々な世界を見る視点を学ぶ。	異文化交流、祭礼、芸能、音楽 アイデンティティ
(Ⅱd) アジアにおける人の移動と日本	南 誠	人の移動が活発に行われる今日のグローバル社会を生きる誰もが、人の移動によって生じる諸問題に直面する。この授業ではアジアという地域に焦点を定めて、人の移動にかかわる諸現象(移動の歴史、移動をもたらす諸要因や、人の移動による文化交流と新たな社会空間の生成など)を講義することで、アジアと日本の多文化状況や、異なる言語と文化を持つ人々との共生と協働について理解を深めます。	移民・難民 エスニシティ 社会的包摂と排除 文化交流 多文化共生
(Ⅱe) 宗教から見た日本	滝澤 克彦	日本の宗教文化は、その風土を反映し実に多様で混合性に富む。この授業では、個別の組織宗教だけではなく民間信仰やスピリチュアリティに至るまで様々な事例をとりあげ、「日本文化」と呼ばれるものの特質に迫る。	宗教文化、風土、組織宗教、民間信仰、スピリチュアリティ
(Ⅱf) 日本のことばと文芸	池田 幸恵	さまざまな時代の言語資料を取り上げ、そこに見られる日本語の諸問題を考察することを通して、日本語・日本文化に対する理解を深める。	日本語 日本文学

全学モジュールの 目標キーワード、お よび授業編成の視 点との対応	技能・表現						知識・理解			態度・志向性				※授業編成の視点				
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	A	B	C	D	
	自主的探究	批判的思考	自己表現	行動力	日本語コミュニケーション力	英語コミュニケーション力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	社会貢献意欲	学問を尊敬する態度	自己成長志向	相互啓発志向	哲学的な切り口	歴史・略史を扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブラーニングの活用	
(I a) 前近代の日本と世界	○	◎			○		◎	○			○		○			◎	○	○
(I b) 近現代のアジアと日本	○	◎			○	○	◎		◎		○		○			◎	◎	○
(I c) 人々の暮らしから見る現代日本	◎	○					◎		○		○	○				◎	◎	○
(II a) 世界の中のヨーロッパ、アジア、アフリカ	○	◎	○				◎	◎	◎		○			○	◎	◎	◎	○
(II b) 世界と日本の文化交流	◎	◎	○	○	○		○	○	◎	○	○	○	○			◎	◎	○
(II c) 芸術で見る世界と日本	○	○	◎				◎	○	◎				○			◎	◎	○
(II d) アジアにおける人の移動と日本	○	◎	○		○		◎	○	◎	○	○	○	◎			◎	◎	○
(II e) 宗教から見た日本	◎	◎	○		○		○	◎	◎	○	○	◎	◎	○	○	◎	◎	○
(II f) 日本のことばと文芸	◎	○	◎		◎		◎		○		○					◎	◎	○
◎(特に重視)の数	4	6	2	0	1	0	7	2	6	0	0	1	2	0	8	8	0	
○(重視)の数	5	3	4	1	5	1	2	4	2	3	8	3	4	2	1	1	9	

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目